

や やるぞ～ ま まけないぞ～ が がんばろうぜ～ た 楽しい学校になるように

緊張の夏 日本夏の夏！

コロナの感染危機への憂慮もさることながら、この夏の猛暑は異常でした。オリンピックで来日した他国の選手団は、この日本の夏にあらためて辟易していたのではないのでしょうか。

このような暑さを嘆くたびに、エアコンもなかった昔の夏はどうして過ごしていたものかなと思います。今の若い皆さんは知らないかもしれませんが、夏の夜は、どこの家も蚊帳（かや）をつったものです。家族が一つの蚊帳の中に川の字になって寝る。蚊帳の中で母親が昔話や近所の噂話をおもしろおかしく語ってくれました。畏怖の存在たる父親がいびきをかいて熟睡している姿に、安心感にも似た感覚を覚えたものです。

蚊帳が減ったのは、昭和40年代の高度成長時代に入ってからだと言われています。ドブ川が減り、殺虫剤の普及で蚊の発生が激減しました。木造の家屋も減り、蚊帳を吊す鴨居も徐々に姿を消しました。サッシが普及して開けっ放しで家中に風を通すのは、防犯上難しくなったのも影響していると言われています。

朝のまどろみの中で、蚊帳を畳むとき、きまって蚊帳を見立てて泳ぐまねをして母親を怒らせたものです。中に入った一匹の蚊を追い掛け回した夜。蚊帳には、単に蚊から身を守る以上の何かがありました。雷が怖くて蚊帳にもぐって震えた日。夢うつつに遠くに聞いた花火の音。蚊帳が肌に触れたときのあの涼しげな感触。

私は、自分のだけの秘密基地と化した蚊帳の中で、夏休みのドリルや日記の宿題に取り組んだ記憶が今なお鮮明に残っています。

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

さて、夏休みが明けました。白翔祭・新人大会・合唱発表会と、大きな学校行事や教育活動が続きます。

これまで以上に、クラス一丸、学年一丸、チーム一丸、学校一丸となって取り組むことが重要となる大切な山場を迎えます。そのような中で、集団から一人でも“蚊帳の外”の生徒をつくることのない指導、自ら“蚊帳の外”に身を置こうとする消極的な生徒を生み出すことのない支援を、引き続きお願いします。

そして、私はこう思うのです……………

84歳になる私の母親が、現役の仕事を引退した60歳代の半ば頃につぶやいた言葉が今も忘れられません。「仕事が忙しくて、子育てに夢中で、生きることに必死で、4年に一度のオリンピックすらゆっくり見た記憶がない。やっとこれからは、じっくりテレビで楽しめるかなあ」と。

戦後の高度成長期の前回開催から、56年ぶりに日本にオリンピックがやってきました。同時にパラリンピックも行われています。これからの未来を背負う子どもたちに、どんな夢や希望や感動や、あるいは課題をもたらしてくれたのか、冷静に粛々と注視したいと思っています。